

第1学年 音楽科学習指導案

2 組 32名
指導者 幾島 留美子

- 1 題材名 箏の表現を味わいながら
教材曲「さくらさくら」「六段の調」
【A表現・(2)器楽】イ 【B鑑賞】ウ
〔共通事項〕音色、旋律、速度、リズム、強弱等

2 題材について

1 学年では、1 学期にソプラノ、アルトリコーダーを学習したが、リコーダーに対して苦手意識をもつ生徒が3分の1程度いた。指穴が塞げない、指の動きが難しいなどがその理由である。その点、箏は弦を弾けば確実に音が鳴り、読譜も数字で分かりやすい。さらに、教材曲として誰もが知っている「さくらさくら」を取り上げることで、これまで、リコーダー等の器楽に苦手意識があった生徒も、抵抗なく取り組むことができるものとする。また、我が国の伝統音楽については、普段触れる機会が少なく、生徒にとっては縁遠いものであると思われる。そこで本題材では、ゲストティーチャーの生演奏を聴いて、和楽器の音色や表現の美しさ、伝統音楽のよさを肌で感じ取ることができるようにしたい。

箏は、日本独特の繊細な音色や様々な奏法からなる豊かな表現が特徴的な楽器である。本題材では、表現活動を通して箏の基本的な奏法を学び、さらに鑑賞との関連を図ることで、箏の多彩な表現や音色の美しさを味わい、我が国の伝統音楽に対する理解や愛着を深めることができるようにしたい。

本題材では、導入でゲストティーチャーの生演奏による「六段の調」を鑑賞し、感動とともに「自分も表現したい」という意欲を高める。教材曲「さくらさくら」の練習では、姿勢、基本的な奏法等、細かいステップを踏みながら学習を進め、ゲストティーチャーとのTTによる個別指導やペア学習を充実させることで、一人一人に「できた」という喜びや成就感を味わわせたい。

3 研修主題との関連

本題材では、ペア学習を取り入れ、互いにアドバイスし合ったり、相手の演奏の際に、拍子を取る、楽譜を歌うなどのサポートをしたりするなど学び合うことで、学習効果を高め、表現力や技能の向上を図りたい。また、授業の終末には、互いの演奏を聴き合って相互評価し、その評価を言葉で伝え合うことで、表現する意欲をさらに高めるようにしたい。

4 全体指導計画（全体3時間）

- (1)「六段の調」を聴き、箏の音色や表現の美しさを感じ取る。 1時間
(2) 箏の基本的な奏法や、特徴的な奏法（押し手）を理解し、「さくらさくら」を演奏する。 2時間（本時2／2時）

5 本時の学習

(1) ねらい

箏の特徴的な奏法（押し手）を理解し、「さくらさくら」を演奏することができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応（配時）	支援（・）、協働的な学び合いを意識した支援（◎）、評価（◇）
1 前時の学習を復習し、本時のねらいを確認する。 （5分）	- 正しい姿勢や基本的な奏法、弦の名前が確認できるような掲示物をもとに、個別指導する。 - 生徒が抵抗なく演奏できるように、七、斗、為、巾の弦に印をつけておく。
「押し手」の演奏法を理解し、「さくらさくら」を最後まで演奏しよう。	
2 押し手についての説明を聴き、部分練習する。 （10分）	- 押し手の効果がはっきり分かるよう、ゲストティーチャーに、押し手がある場合とない場合を模範演奏してもらう。 - 力加減、手の形や位置が分かるよう、図で示すなど具体的に説明する。
3 「さくらさくら」の後半部分を練習する。 （10分）	◎ペア学習による学び合いが効果的にできるよう、具体的なアドバイスの方法やサポートの仕方を明示する。
4 「さくらさくら」を通して練習する。 （10分）	- 一定のテンポで演奏できるよう、メトロノームをかけておく。 - 自分に合った爪が選べるように、爪を付け替えることのできる場所を用意する。 - 姿勢や奏法がうまくいかない生徒には、ゲストティーチャーとともに、個別指導する。
5 互いの演奏を聴き合って相互評価をする。 （10分） - 箏に対して斜めに座り、背筋が伸びていて姿勢がよい。 - 親指による弾き方が、線を書くようにスムーズである。 - 押し手の力加減がよいので、音程が正しい。 - 弦を弾く力が強く、音色が美しい。	- 聴く視点をもつことができるよう、相互評価カードに「姿勢」「弾き方」「音色」「音程」等、例を示しておく。 - 表現の意欲が高まるように、互いに評価したことを、言葉で伝え合うように助言する。
6 学習のまとめと自己評価をする。 （5分）	学習の成果が実感できるような自己評価カードを工夫する。
◇箏の特徴的な奏法（押し手）を理解して、演奏することができたか。 【音楽表現の技能】（実技・自己評価カード）	

(3) 研修の視点

表現の意欲や技能を高める手立てとして、ペア学習や教師の支援は適切であったか。